

ヒューマンニュースレター

W E L O V E H U M A N !

2024年12月



受け継がれるヒューマニティー
～進化する「幸せ」の方程式～



目次

受け継がれるヒューマニティー 1

ヒューマンスクール早岐通信 2

地域とつながる、
新しい自動車学校のカたち

ヒューマンスクール松浦通信 3

企業に求められる交通安全教育

ヒューマンバス・トラベル通信 4

最新システムで進化する

貸切バスの安全管理

リユーコス通信 5

自社開発で掴む

新たなワークスタイル

ヒューマントーク 41 6

ヒューマンで人々を幸せに
～受け継がれる想いと新たな挑戦～

ヒューマングループ

代表取締役会長 内海 和憲

代表取締役 内海 梨恵子

会長の歩み 10

ヒューマンポエム 12

リエコラム 1 12

変化を力に、

組織と人の強みを活かす

ヒューマングループ

代表取締役 内海 梨恵子



ヒューマンスクール
早岐 通信

地域とつながる、新しい自動車学校のカタチ

自動車学校が地域の交流拠点に！免許取得だけじゃない、地域に根ざしたイベントに見る、ヒューマンスクール早岐の交通安全×地域貢献の新たな挑戦

ヒューマンスクール早岐では、免許を取得するだけでなく、**交通安全の啓蒙や地域活性化に貢献できる自動車学校を目指しています**。その一環として、昨年から定期的に地域住民向けのイベント「**ヒューマン×ヨカコトマルシェ**」を開催。自動車学校という枠を超え、地域の交通安全センターとしての役割を果たすべく、様々な取り組みを行ってきました。



運転体験の様子



まつり出店者と集合写真

地域とのつながりを深めるイベント

イベントの目玉は、教習車の運転体験やバイクの乗車体験、交通安全に関するクイズ大会、飲酒運転の危険性を体験できる体験型プログラムなどです。毎回、**子供から大人まで楽しみながら交通安全について学べるものを用意しています**。さらに「マルシェ」も同時開催し、地元のカフェやキッチンカー、ハンドメイド雑貨や整体など、佐世保市内外の様々なジャンルの出店者様にご参加いただいています。また、安全運転の最新技術を紹介するため、自動車メーカーによる自動ブレーキや踏み間違い防止機能付き車両の試乗会も第2回から実施しています。

何もかもが初めてだった初開催から、常により良いイベントを目指し、試行錯誤を重ねながら運営を行ってきました。これまでの一番の変化は、「マルシェ」としていたイベント名を「**まつり**」へ変更したことです。今年8月にインターンシップに来ていた大学生から「まつり」の方が文字をただで楽しいイベントであることが想像できるのではという意見があり、その提案を受けて名称を変更しました。

「まつり」効果もあってか、2024年10月開催の「ヒューマン×ヨカコトまつり」では**来場者約500名**を迎えました。従来のイベントに加え、警察署や消防署と連携し、パトカーや救急車、消防車の展示も行い、子供から大人まで大盛況の1日となりました。



ポスター



イベントの様子

今後の展望

これまでもヒューマンでは、単なる自動車学校にとどまらず、障がい者向けの教習など、**地域社会に根差した貢献活動にも積極的に取り組んできました**。また、毎年開催している交通安全教室や保護者向け講習を通じて、交通事故のない安全な社会づくりにも引き続き取り組んでいきます。今後も皆様からの新しいアイデアを取り入れながら、地域にとってさらに価値のあるイベント運営を行い、自社、地域ともに発展できる環境を作っていく所存です。これからも**地域とのつながりを大切に、「ヒューマンがあってよかった!」**と思っていただける存在を目指して活動を続けていきます。



イベントの様子



ヒューマンスクール
松浦 通信

Driving With Joy!

企業に求められる交通安全教育

企業の信頼と従業員の安全を守る! ヒューマンスクール松浦の企業向け講習。
講習で培う「安全運転への意識」と「譲り合いの精神」、事故ゼロを目指す取り組みとは?

企業の信頼を守る企業講習とは

ヒューマンスクールでは、**運転診断や適性検査を中心に企業講習**を行っています。多くの企業が毎年定期的に、あるいは新人研修の一環として受講されています。メインとなる運転診断では、教習指導員が受講者の運転を細かく観察し、事故につながる危険な兆候を察知してアドバイスを行います。この講習の主な目的は、企業とそのスタッフを守ることです。もしも会社名が入った車両が街中で事故を起こせば、企業イメージに大きなダメージを与えかねません。また、スタッフが事故でケガをすれば、業務だけでなく本人の日常生活にも大きな影響があります。このことから**企業全体で交通安全に取り組む重要性**を伝えています。



譲り合いの精神で事故激減

定期的に講習を受けている方々の運転を拝見すると、その成果は明らかです。街中の運転では、確実な安全確認や他の車両・歩行者への配慮が見られ、安心して助手席に座することができます。こうした安全運転の習慣は、職場だけでなく日常的な運転にも良い影響を与え、事故のない日々につながっています。講習後のフィードバックでは、多くの方から「参考になった」という感想をいただき、ベテランドライバーであっても「それは知らなかった」という声を聞くこともあります。この受講者の皆様の感想が、私たち指導員にとって大きな励みとなり、さらなる指導力向上への原動力となっています。

地域の安全を守る!ヒューマンスクール松浦の挑戦

当校では、この企業講習を通じて、**地域社会の安全に貢献したい**と考えています。一つでも多くの事故や違反を減らすため受講者一人ひとりの運転の癖を丁寧に観察し的確なアドバイスを行なっています。受講者の方々が納得し、笑顔で帰られる姿を見るたびに、私たちの取り組みの意義を実感しています。今後も年々変化する交通環境や法規制に対応しながら、**企業の皆様と共に事故ゼロの未来**を目指して、地域の交通安全に貢献していきたいと考えています。





ヒューマンバス
ヒューマントラベル
通信

Playing With Joy!

最新システムで進化する貸切バスの安全管理

社内システム「Lark」を活用した自動点呼システムの導入とその効果とは？
法改正に対応しながらスタッフの負担軽減と業務効率化を実現した最新の取り組みをご紹介します。

自動点呼システムで貸切バスの安全運行を確実に

貸切バス業界では、お客様に安心安全にバスをご利用いただくため、様々な法改正が行われています。2024年4月の改正では、バス事業者は点呼時の動画撮影と90日間の保存が義務付けられました。これを受け、ヒューマンバスでは社内ツール「Lark」を活用した**運行後の自動点呼・アルコールチェッカーシステムを導入**しました。

システム導入のため、必要な機器を準備しながら陸運局への届出手続きを行い運用開始の準備が整いました。しかし、最大の課題はスタッフの操作方法の習得。スマートフォンでの免許証読み取り、アルコールチェッカーの使用法、カメラ操作など、繰り返し練習を重ねました。



運行後の点呼の様子

24時間365日安全運行であるために

導入後、貸切バスのドライバーからは、宿泊先でも点呼もアルコールチェックなどの記録も可能になり、**利便性が大幅に向上した**との声がありました。運行管理者立ち会いでの点呼も回数半減により、業務効率が大きく改善され、特に夜間や休日の負担が軽減されています。その他にも、Larkで整備点検記録の簡素化や、会社からの情報、日報、給油記録も一元管理しました。**自動点呼に割いていた時間と負担の軽減により、車両整備や運転技術向上のための研修など、ヒューマンバスの品質向上にこれまで以上に取り組むことができます。**

現在は業務後の自動点呼のみ実施していますが、業務前の自動点呼も試験的に行われているようです。今後は業務前の自動点呼も可能になれば、さらなる安全性と効率性の向上が期待できます。この新システムの導入は、ヒューマンバスの安全管理体制を大きく前進させました。法令遵守はもちろん、スタッフの負担軽減、業務効率の向上など、多面的な効果をもたらしています。今後も最新技術を積極的に取り入れ、お客様により安全で快適な旅を提供し続けるため微差進化に取り組み続けます。



アルコールチェックの様子



車両整備



研修の様子

？ 点呼とは… 運行前後に運行管理者とドライバーが行う重要な確認作業です。



アルコールチェック



健康状態



車両の状態



運行ルート



携帯品の確認
(免許証など)



運行時の情報共有





リューコス 通信

Working With Joy!

自社開発で掴む新たなワークスタイル

DXで業務効率化を加速! Larkで挑戦する「全員参加型」の業務改革。
ヒューマングループの社内システム開発の道のりとその効果をご紹介します。

サーバー老朽化からクラウドへ! 新システムへの挑戦

これまでヒューマングループでは、会社の業務効率化、コミュニケーション強化のために独自のグループウェア(基幹系)を構築してきました。完成度が高く、変更の必要もなかったため長年愛用してきましたが、サーバーの老朽化、システムの更新等々のインフラ要因があり、変更せざるを得ない状況となったり、新システム導入に踏み切りました。

これまでのデジタル化の沿革を紐解いていくと、リコーマイツール→ロータスノート→オリジナル基幹系→Lark導入(現在)に至ります。ノートからLarkまでの間、オリジナルのグループウェアを構築していましたが、ノートがあまりにも良くできたツールだったこともあり、ノートを超越するウェアにするまでにかなりの時間がかかるのではないかと考えていた矢先、業務に必要な機能がほぼ揃っている「Lark」を社長が見つke、導入となりました。

やりたいことを実際の活用場面とすり合わせながら、自分たちで構築する。最初はLark本社の方にビデオ会議やチャットを通じてご指導いただいたり、マニュアルを見ながら手探りで構築でした。長年マイツールを使い培われた『自分たちのやりたいことは?次に何をしたいのか?』というヒューマングループの考え方はLarkにマッチしました。



これまで使用していたグループウェア(ノート)



Larkで新たに構築したダッシュボード

情報の一元化と自動化でヒューマンエラー激減へ

これまで、様々なアプリケーションを使っていた業務を、集約して時間効率、デジタル化による無駄な用紙節約も含め、**コミュニケーションの活性化や情報共有もスムーズになりました。**

なんとと言っても稟議決済がモバイルでも可能になったことと、チャットボットや自動化でヒューマンエラーを減らせたことは現場をハッピーにしました。

今では『こういうものを作りたい』というアイデアを皆で出し合いながら、微差進化させています。

! DX導入支援も行っています

このような**お悩み**はありませんか?

- ☒ 社内の情報共有をデジタル化
- ☒ 業務のマニュアルを整えたい
- ☒ 社員の業務の進捗をリアルタイムで把握したい



QRコードからお気軽にご相談ください! ▶



! Larkの代表的な機能



チャット



メール



ビデオ会議



カレンダー



タスク管理



文書作成



表計算



フォーム作成



データベース

ヒューマンで人々を幸せに ～受け継がれる想いと新たな挑戦～

今回のヒューマントークでは、特別企画として、35年にわたり当社を率いてきた内海和憲会長と、本年4月に代表取締役社長に就任した内海梨恵子社長による対談をお届けします。創業72年を迎える当社の歩みと、新たな時代に向けた展望について、語りました。

受け継がれる想い — 創業からの歩み —

——会長、2代目として35年の長きにわたり当社を率いてこられました。お父様から経営を引き継がれた際に特に意識されてきたことはなんですか？

内海力：1989年11月26日に父の急逝を受けて社長に就任しました。その時まず感じたのは自動車学校の将来への強い危機感でした。少子化の波が確実に押し寄せてくる—この予感確信に近いものでした。そこで、現状の経営基盤をしっかりと固めながらも、新しいビジネス、新しいマーケットへのチャレンジが必要だと強く感じました。

——在任中は様々な変化があったと思います。転換点となった出来事について教えてください。

内海力：社長就任後、**最も重要だと考えたのが経営管理体制の確立**でした。それまで専務として会計以外の業務を担当していた私にとって、資金や決算書の問題は大きな課題でした。そこでご縁のあった二人の先生との出会いが、大きな転換点となりました。

一人はMG開発の西順一郎先生。「今からはコンピューターの時代だ。全員で経営に取り組み、全員でコンピューターを使う会社を目指せ」という言葉に大きな影響を受けました。もう一人は会計事務所の中込さん。この二人の指導のもと、**全社員を巻き込んだ経営教育とコンピューター教育をスタート**させたのです。当初、現場からは「なぜ私たちが経営を勉強しなければならないのか」「なぜコンピューターを使わなければならないのか」という強い反発もありました。しかし、これが正しい方向だという確信のもと、目的をあまり明確にせず、とにかく「みんなで一緒に勉強しよう」「みんなで会社を経営していこう」と突き進みました。

その結果、たとえば月次決算は毎月1日の16時には手元に届き1年間の移動年計がリアルタイムで確認できるシステムを構築することができました。このシステムは今でも機能していて、経営の重要な判断材料となっています。実は、コンピューター化については創業者である父も、その重要性を認識していました。1980年代、まだカタカナ文字しか出力できない時代から、システム開発に取り組んでいたのです。その先見性を活かし、私の時代では惜しみなく投資を続けました。今から振り返ると、この判断が現在のデジタル化の基盤を作ったのだと実感しています。さらに、西先生との出会いは、多くの素晴らしい経営者との出会いにもつながりました。山本先生、酒井オーナー、グロービスの堀さん、ソフトバンクの孫さんなど、様々な方々との出会いが、40代での新たな学びをもたらしてくれました。**自動車学校の枠を超えた視野の広がり、その後の経営に大きな影響を与えることになったのです。**



徳田虎雄理事長（右）と内海家



スピリチュアルセミナー 山本貞彰先生（中央）

幼き日の決意と「ヒューマン」への想い

——社長は幼少期から会社の成長を間近でご覧になってこられたと思います。どのような思い出がありますか？

内海リ： 創業者である祖父については、小学校4年生の時に亡くなっているので、限られた記憶しかありません。ただ、はっきりと覚えているのは、祖父の姿が見えたら、ピリッとした空気になることです。社長室に挨拶に行く時には、「きちんと挨拶をするように」と言われたことを覚えています。しかし、当の祖父は社長室の引き出しには工具がいっぱい入っていていつも機械いじりをしていました。経営者というよりも、何かものを作ったり、数字を見たりするのが好きな人という印象が強く残っています。



創業夫妻と内海 梨恵子（左から2番目）

なにより印象深いのは、祖父の急逝後の両親の姿です。

母も会社に入り、現在私が使っている部屋が当時の託児室だったのですが、私は学校が終わるとそこで両親の仕事が終わるのを待っていました。人から見ると大変そうに映ったかもしれませんが、**私にとってはむしろ一足先に会社の一員になったような、特別な時間でした。**輪転機で印刷するのを手伝ったり。今思えば、みんなの仕事の邪魔をしていたかもしれません（笑）。しかし、この経験は私の原点となっています。

私の人生を決定づけた出来事が二つあります。一つは、子供の頃によく耳にした「男の子はまだですか」という周囲からの言葉です。その言葉に子供ながら強い憤りを感じました。その気持ちは、幼稚園の卒園文集に「おじいちゃんの会社をお父さんと一緒に大きくします」と書くほど強いものでした。

もう一つは、まだ創業者が存命中の出来事です。会社の家族会で私も話をする機会があり、私は「おじいちゃんの後はお父さんが社長になって、その次は私がなります」と宣言したのです。周りの人たちは温かく笑って喜んでくれました。ところが家に帰ると、かつてないほど厳しく父から叱られました。その時に言われた**「会社は私たちのものじゃないんです。スタッフのみんなが頑張ってくれているからこそです。実力がなかったら社長にはなれません」**という言葉は、今でも心に深く刻まれています。「実力をつけねば」と決意しました。

——「ヒューマンで人々を幸せに」という理念に込められた想いについて教えてください。

内海力： 実は、私が社長を引き継いだ時、具体的な言語化された理念はありませんでした。創業者である父＝理念という状態だったのです。父の想いを探る中で、大きな発見がありました。

それは、創業から間もない昭和30年代の出来事です。父は当時、保護司として活動しており、少年院に車を持ち込んで、収容されている少年たちに免許を取得させるボランティア活動を行っていました。その後、昭和36年、一人の方との出会いが大きな転機となります。当時、国の出先機関で障がい者の方が運転免許を取得できるようになったという情報を持って、山口さんという方が父を訪ねてこられたのです。「障がい者でも免許が取れるようになった。どうか自動車学校を開放してほしい。

お金はないので、ボランティアでお願いしたい」という申し出でした。

父はその熱意に応え、障がい者の方々への運転免許取得支援を始めました。実は、これが日本で最初の取り組みだったのです。

この事実を私自身、社長になって3年目に東京の身体障がい者センターからの取材依頼で初めて知りました。当時は決して経営が楽な時期ではなかったはずですが、それでも困っている人に手を差し伸べる、という父の精神。それは正に「ヒューマン（人間愛）」そのものでした。

この発見が、後に社名を「ヒューマングループ」に変更し、「ヒューマンで人々を幸せに」という理念を確立するきっかけとなったのです。

写真検討中

私は専務時代、父とよく衝突しました。「そうじゃない、もっとこうすべきだ」と意見をぶつけ、父からは「何を言うか、俺が作った会社だ」と言われたこともあります。しかし、父の死後、その熱い想いを知り改めて創業者の偉大さを実感しました。**人間愛に満ちた企業家としての父の精神を、会社名と理念の中心に据えることを決意したのです。**



ヒューマンの価値とは？ー 継承と革新で新たな時代へー

——社長は既存の事業に加え、教育事業や DX 支援など新たな分野への挑戦を始められています。これらの事業展開についてどのようなビジョンをお持ちでしょうか。

内海リ： 生まれた時から自動車学校が家業でしたので、若い頃は既存事業の展開ばかりを考えていました。自動車学校はいわゆる立地ビジネスです。創業者がどの地域で始めたかでスケールが決まってしまう。それが悔しいという思いがありました。しかし、変えられないものに意識を向けても仕方ありません。人口減少の影響は、私たちの自動車学校だけの問題ではないという気づきもあり、20代後半から30代にかけては、第3の柱となる事業を必死に模索していました。転機となったのは30代後半です。**人から「教えて」「助けて」と言われることが、実は新しいビジネスの種になるのではないかと気づいたのです。**当社の月次決算の仕組みや営業マーケティングのノウハウ、そして私には当たり前だったデジタル環境が、実は多くの中小企業にとってまだ整備されていない現実を知りました。単なる利益追求ではなく、お客様のお役に立つ、地域の役に立つ、本当に「ヒューマンがここにあってよかった」と思われるビジネス。そのヒントは、私たちの歴史の中にあったのです。私が入社した当時、すでに整っていたデジタル環境が、今でも多くの企業の課題となっている。この気づきは、新規事業の大きな原動力となりました。**既存の強みを活かし、地方の中小企業の発展に貢献する。それこそが、私たちらしい事業展開だと確信しています。**

——デジタル化が進む中で、ヒューマングループの価値をどのように展開していきたいとお考えですか。

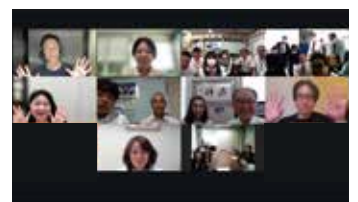
内海リ： 最近、AI技術が人間の知能を超え始めたと言われています。私も若い頃は、優秀な人材を採用して自分の仕事を楽にしたいと考えていた時期もありました。しかし、実際に一緒に仕事をしたいと心から思える人たち、それは「いい人、誠実な人」なのです。デジタル化が進む今だからこそ、この「誠実さ」という人間にしか出せない価値は何者にも代えがたいものだと感じています。**素直さ、自分に対しても周りの人に対してもお客様に対しても誠実であること——これはデジタルでは決して実現できない、人間だからこそ持てる価値です。**このヒューマングループの伝統と価値観を、デジタルと組み合わせることで、その価値は何倍にも、何十倍にもなる可能性があります。私たちは、会社の名前の通り、「人を大切にする」「人の可能性を最大化させる」経営を目指していきます。

——会長から見て、このような新規事業への挑戦についてどのようにお考えですか。

内海力： 私からは2つの期待があります。1つは足元をしっかりと固めること。凡事徹底、当たり前のことを当たり前にやる。これは更に磨きをかけてほしい。お客様が来られた時の心地よい空間、心地よい環境。社員の身だしなみや所作、挨拶など、ビジネスの基本となることを疎かにしてはいけません。もう1つは**新しいことへの果敢なチャレンジ**です。私も多くのチャレンジをしましたが、今思えばもう少し腰を据えた取り組みができたかもしれません。戦略や事業計画をしっかり立て、覚悟を決めて全力で取り組む——その姿勢が私には少し足りなかったように思います。社長には、デジタル化の流れを確実に捉え、それを新しいビジネスとして展開してほしい。**しかし最も大切なのは、「ヒューマンファミリー」としての社員への愛情です。**大きな会社を目指すのではなく、質の高い会社を作りたいと思います。



トイレ掃除の様子



オンラインでの社内セミナーの様子

内海力： 最近、とても嬉しい出来事がありました。ヒューマンバスの一人のドライバーについて、あるお客様から社長宛てに連絡があったのです。実はそのお客様が、かなりわがままな要求をされたそうです。しかし、ドライバーはそれを受け入れて丁寧に対応しました。後日、そのお客様の会社の社長から直々にお詫びの電話があり、さらにお菓子を持って来社されたのです。このドライバーの誠実な対応に感銘を受けたとのことでした。まさに「ヒューマンらしい」対応をしてくれた社員がいることは、私たちの大きな財産です。



徳田理事長と内海家 集合写真

私はいろいろな人と出会い、その人たちから学ぶ中で成長してきました。時には「なぜあんな人と付き合うのか」と言われることもありましたが、私は常に相手の良いところにフォーカスして学ぶことを心がけてきました。

来年の私のテーマは「ワクワク」です。世の中にはまだまだ面白いこと、楽しいことが沢山あります。このワクワクする気持ちを、経営陣だけでなく社員の人々と共有できれば、さらに素晴らしい会社になると信じています。新しい社長のもと、ヒューマングループは次のステージへと歩みを進めます。これからも「ヒューマンで人々を幸せに」という理念のもと、皆様とともに成長してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

内海り： 昨年、創業者が夢見ていた自動車学校の目の前の土地を取得し、**ヒューマニティーパーク**という新しい空間を作ることができました。テナントの方々も大変繁盛されており、この場所が地域の新たな賑わいを生み出しています。



現在のヒューマンスクール早岐（本社）

これからも「ヒューマングループは明るい場所だね」「空気がいいね」と言っていただけるような会社づくりを目指してまいります。たとえ半径数百メートルの範囲かもしれませんが、**この早岐の街に確かな幸せを作り出していきたい。それが私たちの使命だと考えています。**

今回、結果として親子対談ということになるため、会長からは嫌だ嫌だと言われてはおりました。

しかし、ヒューマングループの歴史上、まだ 2 回しかない世代交代です。ぜひとも！と説得をして対談が実現しました。ここまで読んでいただき、ありがとうございます。

これからもヒューマングループをよろしくお願いいたします。



ヒューマニティーパーク（2023 年完成）

Talk Persons

代表取締役会長 内海 和憲

1950 年長崎県佐世保市生まれ。
1989 年ヒューマングループ代表取締役に就任。就任後は、全員経営、全員コンピューターを合言葉にマネジメント進化を開始、様々な人や出来事との出会いに学びを得ながら経営ノウハウを構築していく。
2024 年代表取締役会長 就任。



代表取締役 内海 梨恵子

1979 年長崎県佐世保市生まれ。
2003 年ヒューマングループ入社後、営業、経営企画、人事をしながら各現場を経験。自身や自社のこれまでの経験を活かし、一人ひとりが輝きながら中小企業のヒト・モノ・カネを最大化させるための経営、支援事業を拡大中。
2024 年代表取締役 就任。



HUMAN HISTORY

Talking With Joy!

会長 内海和憲ヒストリー

2024年4月22日に35年勤めた社長を退任し、
ヒューマングループ会長に就任した内海の歩みを会社の歴史とともにご紹介。



ヒューマンの歩み



会長の歩み

佐世保自動車練習所開校②
(現ヒューマングループ)

少年院 院内教習指導 開始

全国の民間で初めて身体障がい者教習開始
松浦自動車学校 開校



ヒューマンバス 設立④

ヒューマントラベル 設立

新社屋 完成⑦



アフラック保険代理店

全員経営・全員コンピューターを合言葉に
マネージメント進化キックオフ!

創立40周年ヒューマントークタウン誌 掲載⑧



PCネット化 社内LAN
(ソフトバンク支援)

情報化促進貢献企業等表彰経済産業大臣表彰

リユーコス設立(マーケティング事業)

トラジャ基金 ⑩

創立50周年記念ニュースレター発行開始



創立55周年記念“ウォン・ウィンツァン”
チャリティーコンサート 開催 ⑪

1950 ▶ 長崎県佐世保市に生まれる①

◀ 1953

◀ 1957

◀ 1962

1973 ▶ 大学卒業と同時にヒッチハイクで世界一周③
佐世保交通産業 入社(現ヒューマングループ)

◀ 1983

◀ 1985 ▶ 徳田虎雄理事長との出会い “全力投球とネバーギブアップを学ぶ”

◀ 1986 ▶ ホノルルマラソン完走(4時間13分12秒)⑤
建築家 福永 博氏、西 順一郎氏と出会う⑥

◀ 1989 ▶ ヒューマングループ代表取締役役に就任
佐世保青年会議所第36代理事長

◀ 1990

1991 ▶ 鍵山秀三郎様と出会う
タヒチスマイルに出会う

◀ 1993

1995 ▶ 法務大臣より感謝状(1990年より保護司)
グロービス(ビジネススクール)受講 <堀義人代表>

◀ 1996

2000 ▶ 佐世保→島原105ウォークラリー
スタッフと共にチャレンジ⑨
(2001年・2003年完歩)

◀ 2001

◀ 2002

2003 ▶ 全指連第6次長期ビジョン幹事長(46都道府県訪問)
PHP認定コーチ トラジャ訪問

2008 ▶ すでい会議に出会う!トライアスロンチャレンジ!
ビートスイミング入会!

◀ 2010 ▶ オープンウォーター2,500m 完泳!
インプレッションセミナー受講!⑫



⑬



創立60周年 “HUMAN Service is Art” 宣言
アニメーション美術監督 山本 二三氏作
社屋の絵 完成⑬

ヒューマン文庫開設(早岐地区公民館図書室)⑮



マーケティングサポート事業
SDGs事業 キックオフ

九州内自動車学校初オンライン学科教習 開始
健康経営推進企業 認定

県内自動車学校初 オンデマンド学科教習 開始
健康経営優良法人ブライト500認定・社屋改築

創立70周年 ヒューマニティーパーク完成

2011 ▶ アクアスロンチャレンジ NLP受講(2011~2012)
楠木建氏と出会う!

2012 ▶ トライアスロンチャレンジ? (腰を痛めて断念)

◀ 2013 ▶ 佐世保市教育委員(2013~2021年)
ホノルルトライアスロンチャレンジ完走⑭

◀ 2014 ▶

2016 ▶ 角谷リョウ氏と出会う

2018 ▶ オランダツアー(神近塾メンバーと共に)⑯

◀ 2020 ▶ 新型コロナウイルスで厳しいスタート ~ 艱難辛苦なんのその...!

◀ 2021 ▶ 長崎県 県民表彰 受章

◀ 2022 ▶

◀ 2023 ▶ 世界元気塾入塾(米倉氏・楠木氏)
直島・豊島⑰ 原田塾

2024 ▶ 社長交代(会長就任)
指定自動車教習所全国大会 教習功労者受章⑱



k a z コラム 51 徳田理事長との出会い

2024年7月10日 徳洲会創立者の徳田虎雄理事長(あえて理事長と書かせて頂きます)が亡くなられたと知りました。徳田理事長は全国に76の病院と診療所や介護事業所など300以上の施設、そして4万人の職員を抱える我が国最大の民間医療法人グループ徳洲会を創立、衆議院議員も通算4期務められました。

私が理事長と出会ったのは1981年佐世保での講演会場、理事長の話に圧倒されました。1982年3月友人をとおして紹介を受け、その後人生の師と思ってお付き合いをさせていただきました。起きている時は頭を**目標達成のためにフル回転!**
そして行動は全力投球! 妥協しない、そして絶対に飽きらめない! 一切手抜きをしない! ミスに対して二度と同じ間違いをしないよう厳しくしかる!

叱るシーンを何度も見てきましたが、その時の理事長の目は、**烈火のごとく怒った“目”**

最後“わかったか”...と言った後は、“**愛に満ちた目**”に変わっていきました。相手の話を聴く時は、相手の目をジーと見ながら聴く! 別れるときは見えなくなるまで、しっかり見送る!

徳田理事長と出会ったあと、会社の方向を考え、翌年の創立30周年に企業イメージアップ作戦(CI)を考え、取り組んだ結果が、今のヒューマンの基礎(会社のマーク、ロゴキャッチフレーズ、企業カラー、そしてCMソング等)となりました。ご病氣になられて、最後にお会いしたのは10年前、目でボードを見ながらの会話“**お一元氣しているか? 家族は皆元氣か? 仕事頑張れよ!**”愛情いっぱい理事長の目に接して、涙が止まりませんでした。徳田理事長ありがとうございました、ご冥福をお祈り申し上げます。



内海(左)と徳田理事長(右)

ヒューマングループ 代表取締役会長 内海 和憲

今月のヒューマンポエム 青い窓

わたしの好きなこと
わたしは絵をかくことが好き
うさぎがピョンピョンするときの
絵をかくと楽しい
絵のぐで色をまぜるのが好き
いろいろな色がつくれるから楽しい
ハサミでおり紙を
チョキチョキ切るのが楽しい
おもしろい形にできるのがすごい
こうさくは楽しい
思ったものたちがつものが
できることもあるから
つくるっておもしろいな

〈郡山市小学二年生の詩〉

つくるって 出会うって 会っていくこと 見たことのない色かたち 自分自身に 青い窓こどもアトリエ 橋本

リエコラム 1

変化を力に、組織と人の強みを活かす



社長の歩み

- 2003 ▶** 私立東京理科大学経営学部経営学科 卒業
株式会社ヒューマングループ 入社
- 2005 ▶** 総合旅行業務取扱管理者
- 2006 ▶** 社団法人佐世保青年会議所 入会
- 2017 ▶** 同社専務取締役役に就任
- 2018 ▶** 一般社団法人佐世保青年会議所
第65代理事長
- 2019 ▶** 旅客運行管理者(旅客)
- 2020 ▶** Gallup認定ストレングスコーチ
SDGsカードゲームファシリテーター資格取得
- 2023 ▶** 国家資格キャリアコンサルタント
- 2024 ▶** 株式会社ヒューマングループ代表取締役就任
佐世保市DXコーディネーター 就任

創業者は「時代を読む力」で事業を立ち上げ、2代目は「ヒューマンらしさ」というブランドを育て上げました。2人とも現場を大切にし、誰よりも真剣に仕事に向き合う姿を私に示してくれました。

師であるハウステンボス創業者・神近義邦さんからは、「**人の強みと付き合うことの大切さ**」を教わりました。

「なにもしなければ3代目で事業は傾く」という危機感の中、自身の力不足や人間力の未熟さを痛感し、「人」の分野で苦労した時期もありました。しかし、その経験のおかげで、他社へ提供できるプログラムが出来、新規事業になりました。**「デジタルとアナログ両輪で経営する」**それは何十年も前からヒューマングループが目指し、実践してきたことであり、私自身の強みです。

変化を楽しんでくれるスタッフとともに、「ヒューマンで人々を幸せに」を掲げ、新たな未来を切り拓いていきます。

今後とも変わらぬご縁をよろしくお願い申し上げます。

ヒューマングループ 代表取締役 内海 梨恵子

WWW.
HUMAN GROUP
.CO.JP

ヒューマングループ ヒューマンスクール早岐 ヒューマンスクール松浦 リューコス
ヒューマンパス ヒューマントラベル アフラック保険代理店

(代表) 〒859-3215 佐世保市早岐3丁目12-6 TEL.0956-38-2257 FAX.0956-38-0547
<https://www.humangroup.co.jp/> e-mail:hg@humangroup.co.jp

Living With Joy!

ヒューマンニュースレター vol. 51

発行日 令和 6年 12月 15日
発行編集 ヒューマングループ企画室

Copyright © 2002-2024
Human Group Co.,Ltd All Rights Reserved.